

集まれ！交流の会 **図書館見学会**

本の森 ちゅうおう 中央区立京橋図書館



今年の秋の図書館見学会は、東京都中央区の「本の森 ちゅうおう」を訪れました。
東京メトロ八丁堀駅から徒歩で、東京のど真ん中に突然現れた斬新なデザインの建物。
そこは森のような安らぎを感じる、広く明るい心地の良い空間でした。

本の森ちゅうおうは、中央区立京橋図書館、郷土資料館、多目的ホールなどからなる複合公共施設です。
「子どもから大人まで誰もが親しみを持って利用でき、歴史・文化を未来に伝える地域の生涯拠点」
というコンセプトのもと、2022年12月に開館しました。今回は京橋図書館を中心に見学しました。

♪ わかりやすいコーナーの配置

図書館内の書架は、子ども、暮らし、医療・健康、ビジネスのように目的別にコーナーが設けられ、それらがフロアサインで案内されています。4フロアに分かれた館内ですが、必要な資料へのアクセスはとても便利に感じました。



こどもコーナー

♪ 区民の居場所として

本や資料を貸し出す施設だけでなく、いろんな目的で区民が集う場にしようという意図があちこちで見られました。学習室、カフェ、屋上庭園、つどいの森など。都心にあって区民が安心して過ごせるスペースづくりを目指す中央区の施策の一環とのことでした。



屋上庭園

♪ 貴重な資料がぎっしり

京橋図書館は1911年の設立。地域資料室には、戦前からの貴重な資料や中央区や東京に関する歴史的・文化的資料が、たくさん所蔵されています。

研究者や作家の方々が、文献を求めて訪れることもしばしばだそうです。



地域資料室の書庫

来館者は1日平均2400人、旧京橋図書館の3倍とのこと、開館と同時に駐輪場や閲覧席は埋まるそうです。交通便の良さから、社会人や学生が通勤通学の途中に立ち寄ったり、中央区以外からの利用者也相当数いるとのこと。

従来の蔵書や資料の充実に加え、情報発信拠点としての役割、さらに都会のオアシスという面も備わった、とてもインパクトのある施設だと感じました。



訪問時には、館長さんと副館長さんから、直々に説明をいただきました。

「京橋図書館の一番の自慢は？」と質問すると、即座に「**貴重な資料がいっぱいの地域資料室**と**いつも定員オーバーのイベントや展示会**」と答えが返ってきました。

館内を丁寧に案内していただく様子からも、深〜い「図書館愛」が伝わってきました。

図書館見学会 は春と秋の年2回、開催しています
特徴ある話題の図書館や、近隣の公共図書館を訪問します

図書館見学会
「本の森 ちゅうおう・中央区立京橋図書館」
日にち 11月11日(火曜)
参加者 19名

集まれ！交流の会

